

警備新報

平成24年11月5日(月)

第052号

月3回(5・15・25日)発行
購読料1ヶ年31,500円
(税込送料共・前納制)

日(月曜日)

株式会社警備保障新聞新社

0-0016

区台東4-5-12荒井ビル

807)1905(代) FAX03(5807)1916

mail@ksnews.co.jp ■編集発行人 増澤 滋



カラーガードMECと音楽隊がコラボ

安全・安心まちづくりキャンペーン

振り込め詐欺被害防止月間に伴う「安全・安心なまちづくりキャンペーン」が1日、東京・秋葉原のベルサール秋葉原1階で開かれた。警視庁音楽隊によるコンサートでは秋葉原にちなみアニメソングなどが披露されたほか、フラッグを使用したパフォーマンスが魅力のカラーガードMEC(メ

ック)とのコラボレーションでは、マーチに合わせた躍動的な演技が披露され、来場者から大きな拍手が送られた。そのほか、警察犬による臭気選別訓練も行われ、最後に道行く人たちにピーボ君ファミリーがチラシ等を配布し、振り込め詐欺被害防止を訴えた。

また、「手間と感じた手続き」について尋ねると「警察に行くこと」43.3%、「参考人調査」43.3%、「被害届」40.4%、「実況見

察に「全件通報」または「一部通報」と回答した企業に、書類作成等で警察にいた時間を尋ねると「1〜2時間」37.8%、「30分〜1時間」31.6%、「2〜3時間」12.0%、「3時間以上」6.9%、「30分以下」4.4%。



今年の春に開かれた万引き防止のための養成講座

「奨励も、使用の断りもしていない」45.3%、「使用の断りをしていない」37.7%、「無回答」4.7%となった。店内確保について尋ねると「検討したことがない」34.0%、「他者の動向を静観している」28.0%、「検討している」11.7%、「すでに実施している」10.3%、「店内確保には反対」8.7%、「無回答」7.3%であった。

保安警備員による確保が大半

全国万引犯罪防止機構 万引被害実態調査

全国万引犯罪防止機構(河上和雄理事長)は警察庁生活安全局生活安全企画課及び日本小売業協会の協力の下「全国小売業万引被害実態調査」の結果を公表した。万引犯罪の増加は小売業の経営を圧迫するだけでなく、より悪質な犯罪にステップアップされる危険性もあることから、対策を講じることは地域社会の安心と安全を確保することにつながるとしている。この調査では、全国の小売業者から寄せられた万引に関するデータを詳細に紹介するとともに、万引犯罪防止対策に向けた提案がなされている。調査は、主としてセルフ販売を行っている全国の小売業・サービス業300社の回答をもとに作成された。

■万引犯罪被害状況
回答企業の直近決算年度における万引被害件数は7万3214件で、同様に確保した万引犯は3万6435人であった。確保した万引犯の男女別内訳は男性60.3%、女性38.6%、性別不明1.1%。確保した万引犯の職業内訳は「無職」34.1%、「主婦」19.4%、「社会人」12.7%、「不明」10.4%、「中学生」8.4%、「高校生」6.4%、「小学生」3.7%。誰が万引犯を確保したかの内訳については、「保安警備員」が80%以上を占めるなど、業態の違いにより、異なる傾向がみられる。一方、婦人服・子供の守備範囲の拡大(48.0%)、「パート比率の増加等による」従業員増加等による「従業員の防犯意識の低下」27.0%、「インターネットオークションの出現」27.0%、「中古ショップの増加」20.0%など。

■万引犯罪の原因
万引犯罪の原因として挙げられたものは「万引に対する刑事罰意識の欠落」71.7%、「失業者の増加など長引く経済不況」54.3%、「店舗の大型化による従業員1人当たり

の守備範囲の拡大」48.0%、「パート比率の増加等による」従業員増加等による「従業員の防犯意識の低下」27.0%、「インターネットオークションの出現」27.0%、「中古ショップの増加」20.0%など。

■万引犯罪の発生状況
万引犯罪の発生状況として挙げられたものは「万引に対する刑事罰意識の欠落」71.7%、「失業者の増加など長引く経済不況」54.3%、「店舗の大型化による従業員1人当たり

の守備範囲の拡大」48.0%、「パート比率の増加等による」従業員増加等による「従業員の防犯意識の低下」27.0%、「インターネットオークションの出現」27.0%、「中古ショップの増加」20.0%など。

■万引犯罪防止策
万引犯罪防止に対する基本的な考え方について尋ねると「青少年の健全な育成」63.7%、「経営上の大きな課題」61.3%、「治安対策として行政が対策をとるべき」42.7%、「万引被害は想定内」5.7%、「特に問題意識はない」1.7%となっている。

■万引犯罪防止策
万引犯罪防止に対する基本的な考え方について尋ねると「青少年の健全な育成」63.7%、「経営上の大きな課題」61.3%、「治安対策として行政が対策をとるべき」42.7%、「万引被害は想定内」5.7%、「特に問題意識はない」1.7%となっている。

■万引犯罪防止策
万引犯罪防止に対する基本的な考え方について尋ねると「青少年の健全な育成」63.7%、「経営上の大きな課題」61.3%、「治安対策として行政が対策をとるべき」42.7%、「万引被害は想定内」5.7%、「特に問題意識はない」1.7%となっている。

■万引犯罪防止策
万引犯罪防止に対する基本的な考え方について尋ねると「青少年の健全な育成」63.7%、「経営上の大きな課題」61.3%、「治安対策として行政が対策をとるべき」42.7%、「万引被害は想定内」5.7%、「特に問題意識はない」1.7%となっている。

■万引犯罪防止策
万引犯罪防止に対する基本的な考え方について尋ねると「青少年の健全な育成」63.7%、「経営上の大きな課題」61.3%、「治安対策として行政が対策をとるべき」42.7%、「万引被害は想定内」5.7%、「特に問題意識はない」1.7%となっている。

■万引犯罪防止策
万引犯罪防止に対する基本的な考え方について尋ねると「青少年の健全な育成」63.7%、「経営上の大きな課題」61.3%、「治安対策として行政が対策をとるべき」42.7%、「万引被害は想定内」5.7%、「特に問題意識はない」1.7%となっている。

「無回答」6.0%、全体の約半数が認知している結果となった。備員の配置」44.0%、「商品陳列に工夫」43.0%、「社員による店内巡回」37.0%、「ミラーの設置」34.7%、「万引防止装置の設置」32.7%、「店内放送による万引防止の呼びかけ」18.7%などとなっている。